

在学生メッセージ

M E S S A G E

田中 千聖

(3年生、環境政策コース、長崎県出身)

環境と聞いてはじめて思い浮かぶのが自然環境という人が多いと思います。しかし、環境科学部で学ぶことのできる環境とは、それだけではありません。その範囲は社会、文化、経済、メディアなど様々です。それができる理由は、この学部が文理融合の学部だからです。はじめの1年間で文系科目と理系科目の総合的な学習をします。2年生で文系の環境政策コースが理系の環境保全設計コースを選びますが、文系で入った人が理系に行くことも、また逆も可能です。自分が進みたい方を選び学びたいことが学べます。選んでからも、融合科目としてもう片方のコースの授業を受けることができます。

ここで学ぶことで、学生は多くの面から「環境」を見ることができるようになります。現在、私たちを取り巻いている環境は複雑になっています。そして「環境問題」も同じです。その問題を考えるにあたっては、理系の視点のみや文系の視点のみといった方法は通用しないことがほとんどです。それに対応するための授業がここでは受けることができます。私はその授業を受けていくことによって、沢山のものが見え、沢山の事に興味を抱くことができるようになりました。1つの事でも多くの視点から見るのが大事ということを実感することもできました。

環境というものについて学びたいという人も、漠然とでも環境に興味があり、大学で学びたいと思っている人にもお勧めできる学部だと思います。私自身、この学部に入ってから、それまでぼんやりとしていた学びたいことを見つめました。

大学は入れたいというものではなく、入ってからの数年間で、自分で「疑問を見つけ、考える」ということを学ぶ場所だと思っています。それをできるのがこの学部だとも思っています。ぜひ、環境科学部で多くの事を学んでください。

水野 沙羅

(4年生、環境政策コース、熊本県出身)

環境科学部は、地球規模の環境問題から、地域における環境問題について学べる学部です。そしてその魅力は、何といても文系理系の両分野から環境問題を学べる点です。

1年次は、文系理系の基礎となる共通科目を学び、2年次に社会経済、行政、文化、国際関係といった文系の視点で考える「環境政策コース」または、生態系や汚染物質、主に自然科学を扱う「環境保全設計コース」のどちらかを選択します。どちらのコースを選択しても、文系は理系の、理系は文系の科目を履修できるので、幅広い分野の知識を得ることができます。私は文系の「環境政策コース」を選択しましたが、「生態学Ⅱ」等の理系の科目を学ぶことで、一層知識に深みが増したと感じています。

また、文理どちらを選択した場合も、必ず「言語コミュニケーションAI、AⅡ」といった英語の授業が必修となるので、これからの国際社会に必要な力もつけることができます。

私の選択した環境政策コースについて少し詳しく紹介すると、例えば「環境マネジメント論」という授業では、学生研究室を対象に、環境対策をきちんと行っているかをチェックする内部監査を行います。そして授業終了後には、長崎県庁に模擬監査員として入ることでもでき、より実践に近い形で授業内容を身につけることができます。

実践的といえば、「インターンシップ」を利用して、実際に就労体験をすることもできます。主に3年次に選択できる授業なので、社会に出る前に、社会人としての自覚と責任感を身につけるには最適な授業です。

以上のように、環境科学部は文理のバランスのとれた、環境問題を学ぶには最適な学部です！

塩屋 望美

(4年生、環境政策コース、長崎県出身)

環境科学部は、「環境」と言う非常に広義的な一語を様々な目線から捉えて、学ぶことのできる場所です。環境問題と言われると、地球温暖化や酸性雨などを思い浮かべますが、世界に存在する環境問題は自然環境に限ったものだけではありません。文化や社会、その他私たちを取り囲む、たくさんの「環境」から問題は生まれています。

それに対応して、本学部は文理融合の体制を取っており、選択肢は他の学部比べてとても多く、そして広いです。1年次に文理両方の面から基本的知識を学び、それを経て、2年次から「環境政策コース」(文系)と「環境保全設計コース」(理系)のどちらかを選択し、自分の興味のある分野についてより深く学んでいきます。その間にも「融合科目」として、自分が選んだコースではない科目も履修するので、1つの視点に嵌ることなく、理解を進めていきます。3年次には選択したコースの中の教員から1人を選んで、さらに学ぶ分野を絞ることもできます。自分が環境問題について何を勉強したいかはっきりしている方は勿論、入学前の私のように漠然と環境に興味のある方も本学部での4年間で、きっと自分のやりたいことが見えて来るはずですよ。また、計画的に単位を取りさえすれば、アルバイトやサークル、遊びの時間などもきちんと確保できるので、大学生活を思いっきり満喫したい方にも、とてもおすすめな学部です。

人生で1回限りしかない大学生活を、環境科学部で過ごして充実させましょう！

高野 佑希

(4年生、環境保全設計コース、福岡県出身)

現在では、生態系や地震、公害など様々な環境問題が注目されています。環境科学部では、このような幅広い分野のことをより詳しく学んでいきます。やはり、環境という分野はまだ未知の部分が多くあると思います。自分が一日の生活で環境を改善していく手段はたくさんあります。たとえば、自転車や徒歩で通学することや、水を余分に使わないなどです。これらは簡単に実行できることで、小さいですが環境に貢献することができます。各々がその小さな積み重ねを実行することで、大きく環境に貢献できるかもしれません。そして、地球全体の環境問題を良いベクトルに持っていかたいと考えています。

私は、地球で実際にどのようなことが起こっているのか、そして、自分に何ができるのかということを知りたいと思い、この分野に興味を持ち、環境科学部に入学しました。自分のように環境について知りたい人、少しでも環境に貢献したい人はぜひ環境科学部に来てみてください!!環境と聞いても人それぞれで興味ある分野も違い、環境に対して様々な考え方を持っている人が多くいるので、様々な知識を得ることができ、また、価値観も変わってきて、楽しいですよ(^^)

牧野 翔真

(4年生、環境保全設計コース、大阪府出身)

環境を学部にしていて大学は全国でも少ないので、このパンフレットを読んでいる方は九州地方だけでなく様々な地方の人がいるかと思っています。自分も関西地方の出身なのですが、この環境科学部には自分の他にも関西・関東など様々な地域から来ている人が結構います。また私事ではありますが、長崎大学を受験すると決めたととき「なぜそんなに遠くに行く必要があるのか」と両親から反対を受けました。今でも両親に遠くへ行かせてくれたことに感謝はしていますが、自分のしたい勉強をすることができているので、あのとき反対を押し切りこへ来たことは間違っていないと感じています。だから、様々な家庭事情があるかと思うのですが、環境問題に興味があるのなら「実家から遠いから」や「親が反対するから」などのような理由で諦めず、是非この環境科学部を受験してみてください。

また今年から環境科学部棟や図書館が新しく改築されとても綺麗になったので、学業に専念できる環境は十分に整っているのではないかと思います。サークル活動では、主に環境科学部の学生で構成される環境科学部ならではのサークルなどもあり、環境意識の高い学生は全国規模で行われるエココンテストに参加したり、地域の環境団体と共に環境保全活動に参加したりすることもできます。

大学の選択は将来に本当に大きく関わることだと思うので、時間をかけてじっくりと考えてみてください。そしてもしこの環境科学部にくることになったら、そのときは僕たちと一緒に環境について考えていきましょう。

小佐々 知代

(4年生、環境政策コース、長崎県出身)

環境科学部のいいところは、文理融合(環境政策コースと環境保全コース)であるということです。文系・理系のどちらに進むかは1年生の終了時に選択することになっており、狭い枠にとらわれずに幅広い分野で学ぶことが出来るのです。高校のころに理系だった人でも文系の道に進むことが出来るし、逆に文系だった人も理系に進むことが出来るので、環境科学部の大きな魅力のひとつです。自分がどちらの道に進みたいか、迷いながら考えを固めていく時間が充分あります。

2年生からは各コースに分かれますが、融合科目として選択しなかった方のコースの講義も履修することは可能となっています。ゼミもいろいろな研究がなされているので、1年生のうちから幅広い分野で学ぶことができます。その上で、自分がやりたいことを見つけたことが出来ると思います。

サークルにも環境科学部ならではのものがいくつもあります。私は1年生の頃から「エコマジック」というサークルに所属していました。学園祭の時には環境に優しいと言われるアクリルたわしを自分たちで作って売ったり、ゴミの分別を呼び掛けたりするなど、環境のことを第一に考えたサークルです。他にも「つじやすみん」や「環境祭」など、環境科学部ならではのサークルがいくつ也存在します。視野を広げるという意味でも、このようなサークルにぜひ入ってください。

江藤 瑞輝

(4年生、環境保全設計コース、福岡県出身)

皆さんが「環境」と聞いて、多くの人が想像するのは理系的な自然環境のことではないでしょうか。よく耳にする気候変動や動植物の絶滅、公害問題などの自然環境に関する問題は、確かに理系の分野です。しかし、これらの問題の周りには人々の過去・現在・未来の生活環境に関する文系的な問題が存在しています。1学年では、このような文系理系の環境科学に関する基礎を身につけます。2学年になると、1学年で学んだことをもとに文系理系を選択しそれぞれ専門分野を勉強していきます。私は理系を選択し、2学年3学期では廃棄物、気象、放射能といった様々な分野の講義や実験を履修してきました。幅広い講義内容や研究内容も一貫性がなく、専門性がないように思われますが、幅広い分野を学ぶことで広い視野を持ち、一つの環境問題に対しても色々な角度からその問題について考えることができるようになります。そしてそれは環境問題に限らず、将来直面するであろう問題に対しても、その問題を解決するのを容易にしてくれると思います。

4年間にきっと考え方も大きく変わり、視野も広がると思います。ぜひ、この環境科学部で多くのことを学んでください。

大島 絵里

(4年生、環境保全設計コース、福岡県出身)

私は高校生のとき「環境」という分野に興味はありましたが、ただ漠然とした興味でした。まだまだ多くのことを知りたい、ひとつの分野に限られた勉強だけでは物足りないと考えていた私にとって、この学部の文理融合で幅広く学ぶことができるという特徴はとても魅力的でした。というのも環境という分野は、ある特定の知識だけを極めれば良いというわけではありません。私は入学前、環境に対して理系的なイメージが強かったのですが法や経済学なども学び、環境について考えるときの視野を広げることができたと思っています。

環境科学部では、入学から2年次までは環境や学問の基礎を学び、その興味に合った文理選択をすることができます。私は2年次から理系コースに進みました。理系の基礎実験では化学物質の分析・測定、植物の観察、解剖、地震分析などなど、多くの課題に取り組み、実際に手を動かしながら理系の分野をしっかりと網羅します。研究室に配属されるまでの期間にこのように学習することで、段階をおって自分の興味を見つけ追求することができる仕組みになっていると思います。

長崎には海はもちろん火山や温泉があり、大学を出て実際にその場に行って調査することもできます。また観光地でお祭りも多く学業以外でも楽しめるので、4年間の大学生活を送るにはうってつけの場所だと思います。

と、大学の話ばかりでしたが高校生活も1度きりです。有意義な大学生活にするためにも勉強や学校探しは手を抜かず、残りの高校生活を思う存分楽しんでください。